

第3学年花組 社会科

「はたらく人とわたしたちの暮らし～タルト工場の仕事～」

指導者 品川 崇

単元目標

- 生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解している。
- 仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現している。
- 地域に見られる生産の仕事について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、主体的に問題解決しようとしている。

全12時間（プロジェクトタイプ×スパイラル型）

子どもの姿と支え方

Creativity（第11時）

解決策を組み合わせて新しいアイデアをもったり、自分なりに納得する別の解決策を作り出したりすることができるようにするために、解決が難しい課題について様々な人と議論する場を設ける。

Choice（第4時）

個々の問題意識を明確にするために、予想を全体の中で整理・分類したり子どもの思考を揺さぶる発問をしたりする。自分なりの問いをもとに追究する計画を立てる。

Challenge（第3時）

単元を貫く学習問題につながる問題意識を強く持つことができるようにするために、人やもののかかわりの場を設ける。



今の子どもの姿

「松山市の様子」の学習では、「学校のまわり」の学習でたくさんの人やもの、ことに関わったことを生かし、身近な地域の様子を捉え、場所による違いを考えてきた。場所をただ比較することによってその違いが分かるのではなく、地域の様子と社会的条件や地形条件等に関連付けることが大切であることに子どもたちは気付いていた。

子どもたちはタルトを食べたり目にしたりの機会が少ないと感じている。そのため、タルト製造に携わっている人たちの仕事の様子は見えにくいと考えているようだ。だからこそ、子どもが「人」とのつながりを通して、生産の仕事の様子を捉えることができれば、タルトと地域の人々の生活とのつながりに気付くことができると考える。

タルト工場ではたらく人たちは、どのようなかせないこだわりをもって、かんぺきでおいしいタルトをはやくつくっているのだろうか。

第3時：〈学習問題の設定〉(タルト工場の人とのつながり①)

タルト工場ではたらく人たちは、どのようなかせないこだわりをもつて、かんぺきでおいしいタルトをはやくつくっているのだろうか。

出合い

第1、2時：〈社会的事実との出会い〉 なぜタルトは松山でこんなに有名なのだろう。

第4時：〈予想設定 学習計画〉

予想をして自分が調べたいことをはっきりさせよう。

追究

第5～7時：〈個や小集団の追究〉工場見学をしよう。(タルト工場の人とのつながり②)

はやくおいしく

かせない
こだわり

はたらく人

「の」の字

第8時：〈個や小集団の追究〉

工場見学で分からなかったことを、工場の人にもう一度聞こう。(タルト工場の人とのつながり③)

第9～10時：〈個や小集団の追究〉

工場見学で調べたことを友達と伝え合おう。

第11時：〈繰り返し高め合い〉(本時)

なぜ、タルト工場の人々は手巻きにこだわっているのだろうか。(タルト工場の人とのつながり④)

振り返り

第12時：〈個なりのまとめ・本質的把握〉

社会科日記を書いて振り返りをしよう。(タルト工場の人とのつながり⑤)

「学びに向かう力」が涵養されている姿

生産の仕事には、生産に携わっている人々のこだわりがあり、そのこだわりが、地域の人々の生活と生産の仕事とを密接に関連付けさせることに気づき、生産の仕事と地域を結び付けている姿

Check（第12時）

子どもと社会（人）をつなげ、子どもの考えが「学校外の価値」になっているかどうか考える機会を設ける。

Collaboration（第5～10時）

それぞれが多様な意見や考え、価値観を持つことを理解できるようにするために、様々な人とタルト生産について話し合うことを通して、多様な意見を引き出したり、建設的に議論したりすることができるようにする。

Critical Thinking（第3、11時）

今までの自分の認識や経験を問い直し、問題意識を持てるようにするために、生産に携わる人々とのかかわりの中で、「ややこしき」に気付くことができるようにする。「ややこしき」を整理し、「ややこしき」をどのように解決するか話し合わせることで、子どもがこれまでの学習を基にしてさらに思考を広げたり、深めたりできるようにする。

単元構想の意義

「タルト」はあんこをカステラ生地で「の」の字に巻いた、松山地方伝統のお菓子である。JR松山駅や松山空港では売り上げ1位を誇り、松山を代表するおみやげや贈答品として定着している。創業141年のタルト製造I社では、伝統のゆず風味のあんこを使ったり、熟練の職人が手巻きでカステラ生地を「の」の字に巻いたりして、「昔から変わらないこと」に「こだわり」を持って、一本一本丁寧に、おいしくて安全なタルト生産を行っている。また、50年前に業界では初めて一本巻きのタルトに切り込みを入れたり、個包装でタルトを販売したり、他企業と連携してあんこの味を変えたりして、消費者のニーズの多様化に対応した商品開発、販売を続け、タルトの様々な可能性を広げてきた。一方で、「熟練工の不足、熟練技術の継承」といった、タルト生産への「こだわり」を本質的に問うような「ややこしき」を抱えている。「こだわり」を切り口に、タルト生産を考えた場合、子どもは、松山の代表的なお菓子であるタルトの生産の意義を問い直し、生産に携わっている人たちが持っている思いには、「こだわり」を続けてきた心意気や松山の伝統菓子を扱う誇りなど、様々なことが含まれていることに気付くであろう。さらに、そのような思いで生産されたタルトだからこそ、松山の代表的な銘菓として存在し続け、様々な人たちに選ばれてきたこと、つまり、地域の人々の生活に密接に関連していることに気付くはずである。工場の人（以下GT）がタルト生産に携わっている当事者だからこそ、子どもが継続的にかかわることで、「ややこしき」が明らかになり、子どもが整理していこうとする原動力＝当事者意識を持つことになるだろう。また、GTとともに悩むことで、子どもはこれからのタルトについて、自分たちの生活と工場の人たちの思いとを関連付けながら、問い続けると考える。

本時の授業 (11/12)
 1 日時 令和6年11月1日(金) 14:05~14:50
 2 場所 3年花組教室
 3 目標 タルト生産の「こだわり」について話し合うを通して、生産に携わっている人たちが一つ一つの仕事に思いをもって取り組んでいることを考え、表現する。

本時における「学びに向かう力」が涵養されている姿

- タルト生産が抱える「ややこしさ」を当事者とかかわり整理しながら、タルト生産の意義を問い直している姿。
- 今までの学習を振り返ったり、見直したりしながら、タルト生産の「こだわり」には、生産に携わっている人たちの思いが込められていることに気付いている姿。

学習活動	1 前時を振り返る。	2 タルト工場の人へのこだわりについて話し合う。	3 GTの話聞き、タルト生産の課題を明確にする。	4 本時の学習を振り返る。	場面	単元の評価規準【●】
予想される子どもの意識の流れ	<p>工場では、きれいに、安全に気を付けてタルト作りをしていたよ。</p> <p>附属小と同じように、タルトもどんどん変わっているね。</p> <p>いろんな味のタルトを作っていて、これからのタルトが楽しみだね。</p> <p>タルト工場では、タルトの手巻きだけはずっと変えてないよ。なぜだろう。</p>	<p>なぜ、タルト工場的人是手巻きにこだわっているのだろうか。</p> <p>30年以上も手巻きの仕事を続けている人がいたよ。</p> <p>たった6人で巻いてるそうだね。</p> <p>手巻き体験をしたけれど、「の」の字にするのはとても難しくて時間がかかったね。</p> <p>誇りを持って仕事をしているんだね。誇りってどういうことだろう。</p> <p>タルトであるためには、手巻きが必要なんだよ。</p> <p>他の仕事にも同じようなこだわりがあるね。</p>	<p><工場の人のお話> 手巻きをする人が少なくなってきて、技術が伝えられなくなってきているんだよ。</p> <p>このままでは、タルトが食べられなくなってしまうということ？どうしよう。</p> <p>手巻きの仕事を続けるって本当に難しいことだね。</p> <p>機械でするしかないのかなあ。でも、タルトではなくなるよ。</p> <p>タルト作りも変わっていくかもしれない。でも、工場の人へのこだわりへの思いは、ずっと変わらないものなのだと思う。こだわりって本当に大切だね。</p>	<p>タルト工場の人々は、ただタルト作りを行っているだけではなく、一つ一つの仕事をこだわりを持って行っている。そのこだわりのおかげで、タルトは松山の多くの人たちに選ばれる存在になった。</p> <p>タルト作りへの思いは私たちに十分に伝わったね。わたしたちも、松山の大切なお菓子であるタルトがこれからどうなっていくのか考えていきたいね。</p>	<p>出合い</p> <p>追究</p>	<p>● タルトと自分たちとの生活との関連に着目し、おいしいタルトを作るための工場の仕事について自分の課題を見出し、予想や学習計画を立て、解決の見通しを持つようとしている。【主】</p> <p>● 参考資料を活用しながら、自分が調べることを明確にし、追究活動を行うことができる。 【思・判・表】</p> <p>● 自分の課題について、資料や友達の報告から、まとめることができる。【知・技】</p> <p>● 学習材や他者とかかわることで、タルト生産が直面している課題を捉え、生産の仕事と地域の生活との関連について考えている。 【思・判・表】</p>
指導(○)と評価(●)	<p>○ タルト生産の歴史と私たちの生活を結びつける資料を用意し、「変わっていないこと」に気付かせる。</p>	<p>○ 子どもがタルト生産の意義を考えるために、GTに、タルト作りのこだわりに対する思いや願いを語ってもらったり、自分たちの考えについて意見をもらったりする場を設定する。</p>	<p>○ 今までの学習が根拠となって発言できるように、問い返しをしたり資料を提示したりする。</p> <p>○ GTの悩みを子どもと共有できるように、GTと子どもの発言をコーディネートする。</p> <p>Critical Thinking</p>	<p>● 生産に携わっている人たちが一つ一つの仕事に思いをもって取り組んでいることを考え、表現する。【ノート、社会科日記】</p>	<p>振り返り</p>	<p>● タルト生産の仕事が、地域の人々の生活と関わりながら行われていることを理解している。 【知・技】</p> <p>● 地域の人々の生活と生産の仕事の関連に気付き生産の仕事と地域を結び付けようとしている。 【主】</p>